

SRC研修コース SRCのための調査活用セミナー

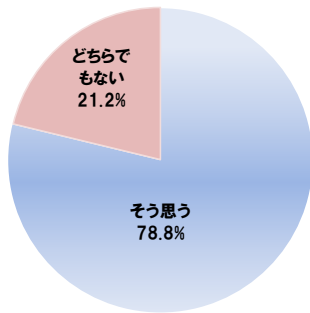
“終了時アンケート” および “グループワーク” 結果報告 (1/5)

- 開催日：2017年5月30日（火）
- 会場：アイオス五反田
- 講師：（公社）国際経済労働研究所
研究員 依藤 佳世

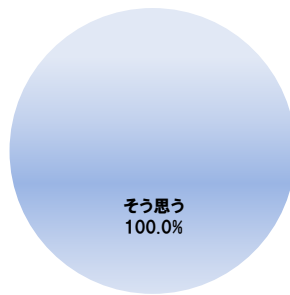
この度は『SRCのための調査活用セミナー』にご参加いただき、誠にありがとうございました。
参加者皆様のセミナーに関するご感想とグループワークの内容をまとめましたのでご報告いたします。
（ご出席者：32名 回答者数：32名）

■アンケート集計

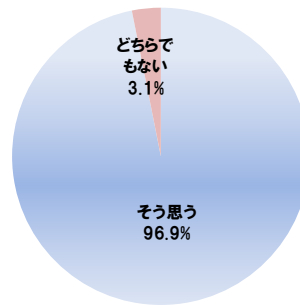
●今回のセミナーへの期待は
大きかったですか？



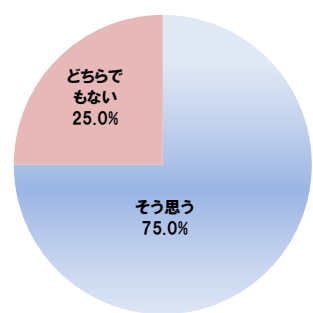
●講師のレクチャーは
わかりやすかったですか？



●セミナー全体として満
足されましたか？



●今後同様のセミナーがあれば、
他の組合員（役員）も参加させ
たいですか？



※「そう思わない」という回答は0名でした。

■感想コメント（気づき・ご意見）

- ・「調査は社会的現実をつくるために行う」という点が印象に残った。
- ・アンケートの結果には我々が考えている以上の情報が入っているという事を学びました。
- ・意識調査をする予定が近々あるので、客観的なモデルの作成のやり方など勉強になった。
- ・設問を考える上でのやってはいけない様々な項目やテクニックを学んだ。
- ・前回のON・I・ON2を受講していなかったもので、ちょっと戸惑いました。アンケートの怖さと注意点を知ってもらうには良いと思う。
- ・仮説やモデルがとても重要であることが理解できました。問題はその設計をどうするか、その結果からのアクションをどうするかを充分考えていきたいと思っています。
- ・解析のフェーズは得られた結果から、仮説モデルを検証することだということを学びました。アンケート調査を実施しても、どちらかと言えば「やりっぱなし」でしたので、今後はその結果を活かせるようにしたい。

- ・意識調査の内容や結果を組合役員等がしっかり分析し、組合活動に活かしていきたいと思います。
- ・今までは、ただ結果の数値を見ていただけだった。今年は違った見方で結果を解析できるのではないかと思います。
- ・ぐっと迫ってくる講演内容でした。
- ・講義を聴くだけでなく、実践があったので良かった。
- ・ボリュームが豊富だったので、もう少し考える時間があれば良かった。

※その他にも多くのコメントを頂戴いたしました。



【事務局より】今回は13組織32名の方にご参加いただき、有難うございました。セミナーでの議論内容や気づきをぜひとも執行部で共有いただき、今後の運動推進にお役立てください。また、セミナーに関する疑問・質問などございましたら、事務局もしくは担当の研究員にいつでもご連絡ください。今後ともよろしくお願いいたします。

（株）応用社会心理学研究所（事務局 末田、藤原）

〒540-0031
大阪市中央区北浜東1-8 北浜東森田ビル5F
Tel：06-6941-2171 Fax：06-6941-2081

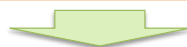


【調査を踏まえたアクションの実例】

A班

注目した調査結果

- さまざまなセミナーや教育にかかわりたいについて男女30代が関わりたいが、組合活動が役に立っているとはいえない
- 20代が組合への参画が少ない
- 食品労組が参加関与が高い



アクションの具体的内容

- 20代が主体となって、キャリア形成などの30代向けの企画を行う。
- 食品労組との交流

ねらいとする効果

- これから組合活動を行う20代、30代が参画し、活動を担えるように、幅を広げていく。

B班

注目した調査結果

- 社会的視野の拡大と人的交流が関与に影響
- 交流の機会やイベントの企画にかかわりたい割合が高い
- 女性の関与が低い
- 集会への強制参加が好きでない人は多いが、組合員の意見を聞いてほしい人は多い



アクションの具体的内容

- 女性をイベントの企画に巻き込み、女性も男性も参加しやすい企画を考える。
- イベントで、組合員の意見を聞く機会を作る。

ねらいとする効果

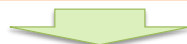
- 組合員の提案を取り込み、アプローチしていくことで関与を上げていく。

【調査を踏まえたアクションの実例】

C班

注目した調査結果

- ・ 男女構成は一般的な組合だが、女性が役員になりたがっていない。
- ・ 社会的視野の拡大と人との交流に役立つことが関与に影響



アクションの具体的内容

- ・ 女性を役員に登用することを糸口にする。10人に1人は役員になってもよいと思っているので、声をかけていく。シンボルになるような女性役員を一人任命する。
- ・ 女性目線で女性の意見を聞く場を設ける。
- ・ 組合の実績、交流の場があることをアピールしていく。

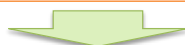
ねらいとする効果

- ・ 女性の関与の向上
- ・ 役員をやることを通じた、視野の拡大をねらう。

D班

注目した調査結果

- ・ 男女の割合は女性:男性=2:8という構成
- ・ 若手の関与が高い。セミナーなどにかかわりたいは30代で高い。交流は50代で関心が高い



アクションの具体的内容

- ・ 若手が企画をして、年配が乗っかる。
- ・ 専門委員会を立ち上げる。

ねらいとする効果

- ・ 強みを活かした組合活動の活性化
- ・ 次世代の役員を見出し、若手との世代交代を行う。

【調査を踏まえたアクションの実例】

E班

注目した調査結果

- いいところを伸ばし、悪いところを克服
- 男性20代がポジティブ、女性が悪い→男性主体の活動になっているのではないか
- 30代女性なら教育やセミナーがポジティブ→活動しているのではないか



アクションの具体的内容

- 女性向けの活動を展開
- 女性向けのセミナーなどを引き続き実施し、参加を促していく。
- 20代の役員を増やすなど、役員メンバーの年齢や性別の幅を広げる。

ねらいとする効果

- 全体の関与を高め、まんべんなく課題を克服する。

F班

注目した調査結果

- 組合活動への参加については「どちらともいえない」が多く、女性がネガティブ
→関心が低い、認知度が低い
- 集会への強制参加スタイルが嫌い
→認知度が低いので、強制参加に抵抗するのではないか
- 社会的視野の拡大や人との交流に組合が役立っていることが組合関与に影響
- 女性50以上が社会的視野の拡大、人的交流について高評価
→イベントに多く参加しているのではないか



アクションの具体的内容

- 若年層が参加率が低いので、若年層向けのイベントを開催し、若手を組合活動に巻き込んでいく。

ねらいとする効果

- イベント活動の中から若年層の役員・執行委員候補を育てる。

【調査を踏まえたアクションの実例】

G班

注目した調査結果

- ・ 女性比率が2割程度、役員も6割程度が経験ないなどから、従来型の組合といえるのではないか
- ・ 視野の拡大と人的交流が関与に影響 → イベントが重要なのではないか
- ・ 女性の関心が低い → 女性向けの活動が少ない、年齢が上がるとさらに悪くなる。



アクションの具体的内容

- ・ かつてのイベントに比べて現在は頭を使うものが多くなったのではないか
「昔やっていたのに今はやっていない」と思われているのではないか
→ 50代はイベント活動をして組合活動をしていたはず。彼らにも呼びかけ、昔やっていたボーリングやバーベキュー、梨狩りなどの活動を取り入れる、いわば「ルネッサンス」を起こす。
- ・ 日本の良さを発見するような文化的な活動、すもうや歌舞伎などを取り入れる。

ねらいとする効果

- ・ 参加率が低い、コミュニケーション不足、あいさつもしないという状況を克服
- ・ 行事的なことを通じてコミュニケーションも深めていける。